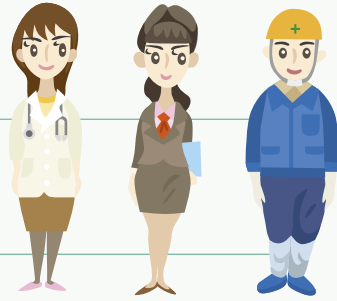


シリーズ・第9回



医学協会の
確かな安心

厚生労働省主催 がん対策推進企業 アクション



医学協会が誘致し、**新潟初開催!!**

新潟セミナー

2016
11/15(火)

職域における がん対策の最新情報

参加費
無料



日本の企業が、自社の社員から積極的にがん検診を受診してもらい、50%以上の受診率向上を目指す、国家プロジェクト(厚生労働省が主催)が「がん対策推進企業アクション」です。

現代日本が、世界一のがん大国という現状(全国でおよそ32万人の患者数・その約3分の1が労働者)をふまえ、企業が率先して自社の社員と家族を守るべく推進パートナーとなり、がん検診受診の重要性(がんの早期発見・早期治療)とがん対策に努め、他の企業とも連携しつつ、がんになっても安心して社員が働ける社内環境に取り組んでもらうことを目的にしたプロジェクトで、賛同してパートナーになった企業・団体は全国で2,260社あります。

社員の健康を守るための、がん検診の受診促進とがん教育には企業の理解と協力が必要不可欠ですが、参加されている推進パートナー企業は、各企業内でのがん検診の普及啓発活動や自社のがん対策を発信するなど、社員を大切にしている企業としての社会的責任を果たしています。

今回開催された新潟セミナーは、同プロジェクトにいち早く参加し、がん検診(職域と住民の両方で)を推進してきた当会の誘致で実現しました。



目録新聞で毎週木曜日の夕刊に「がん社会を診る」連載中の中川Dr.は、このセミナーのアドバイザーボード議長です。

東京大学医学部附属病院
放射線科准教授
中川 恵一 先生



新潟県がん対策推進協議会委員も務める佐藤Dr.はセミナーに「つばり」だこの人気講師。

新潟県立がんセンター
新潟病院院長
佐藤 信昭 先生



チャームिंगな笑顔と美声で大活躍中のみずほさんは、第4代新潟県元気大使に任命されています。

フリーアナウンサー
伊勢 みずほ さん

開催日:2016年11月15日 **当日プログラム** 場所:ANAクラウンプラザホテル新潟

- 13:00 受付(定員150名)
- 13:30 主催者講演「我が国におけるがん対策について」
厚生労働省健康局 がん・疾病対策課
- 13:40 共催者講演「治療と職業生活の両立支援ガイドライン」について
新潟産業保健総合支援センター
- 14:00 **がん対策推進企業アクション事業説明**
がん対策推進企業アクション事務局
- 14:10 基調講演「職域におけるがん教育の重要性」
東京大学医学部附属病院 放射線科准教授 中川恵一
- 15:00 休憩
- 15:10 講演①「がんに負けない社会は職場から～受けよう、がん検診を」
新潟県立がんセンター新潟病院院長 佐藤信昭
- 15:40 講演②「病を授かって見えたもの～キャンサーギフトという生き方」
フリーアナウンサー 伊勢みずほ
- 16:00 休憩
- 16:10 **パネルディスカッション**
- 16:50 **質疑応答**
中川恵一 × 佐藤信昭 × 伊勢みずほ
- 17:00 閉会

社員へのがん啓発の取組みに興味と関心のある企業や団体の皆様を対象にしたセミナーです。



がん対策推進企業アクション

「職域におけるがん対策の最新情報」レポート



医学協会が新潟初!!となる、がん対策推進企業アクション「新潟セミナー」を誘致したのはなぜか?

全国健康増進協議会の一員として、長年同プロジェクトに参加し続けたことがきっかけとなり、昨年の11月15日に医学協会は、厚生労働省が主催する「がん対策推進企業アクション」を日本海側で初めて誘致し、ANAクラウンプラザホテル新潟で、「新潟セミナー」を開催しました。

今回のセミナー開催の狙いは、“がん”についての正しい知識やがん対策の最新情報、早期発見の大切さや、発見された後の治療と職業生活の両立支援、がん教育の重要性についての理解を深めていただくとともに、がん対策推進企業アクションの事業説明や重要性を企業・団体の方々に広くお知らせし、ご理解を得たいと考えたからです。それでは、本セミナーの紹介をまとめて報告します。

プログラムは最初に3題、主催者による事業説明などを行いました。まず、主催者の厚生労働省健康局がん・疾病対策課 渡部直史課長補佐による「我が国におけるがん対策について」と題した講演です。次に、新潟産業保健総合支援センター 須貝澄夫副所長から「治療と職業生活の両立支援ガイドライン」について、最後にがん対策推進企業アクション事務局水株隼人さんから本事業についての説明がありました。



Dr.中川の「職域でのがん教育」、Dr.佐藤の「がん検診の重要性」、伊勢さんの「キャンサーギフトの思考」は、充実の講演

次にメイン講師三人の講演です。最初に、「がん対策推進企業アクション」アドバイザリーボード議長として、この取り組みを主導されている東京大学医学部附属病院放射線科准教授の中川恵一先生より「職域におけるがん教育の重要性」と題し、“がん”についての正しい知識と病気が発見された後の就労支援、また、子供たちへのがん教育の重要性など、幅広いがんの問題についてのお話がありました。

2席目は、新潟県における乳がん治療の第一人者であり、新潟県がん診療連携協議会会長や新潟県がん対策推進協議会委員として、各種がんの早期発見・早期治療に取り組まれている新潟県立がんセンター新潟病院の佐藤信昭院長より「がんには負けない社会は職場から～受けよう、がん検診を」と題した講演です。いつもながらの優しい語り口で、がん検診の目的や、肺がん・胃がん・乳がん等の現状、また、がん予防についてなど、分かりやすく、かみくだいて説明されました。

3席目は、フリーアナウンサーとして県内のグルメや地域情報を伝えることはもとより、ご自身のがん体験を基にしたがんの啓発講演活動でも広く知られる、伊勢みずほさんを講師に迎え、「病を授かって見えたもの～キャンサーギフトという生き方」と題した講演です。みずほさんご自身のがん体験や職場での仕事との両立、キャンサーギフト(がんからの贈り物。がんになって得られたこと、という意味だそうです)という考え方など、貴重なお話をされました。



がん検診委託先の重要、かつ、大切なポイントは、信頼できる実績の機関に委託すること

私は、当会で、住民や職場の各種がん検診に関わる仕事をしていますが、このセミナーで改めてがん対策の重要性を理解することができましたので、その概略をまとめてみたいと思います。

まず、一つ目です。日本では、“がん”は私たちにとり、大変身近な存在だということです。すでに2人に1人ががんにかかり、3人に1人が、がんで死亡しているという統計データが発表されています。

人口比における“がん”の死亡割合が世界でも高く、その実態は世界一の“がん大国日本”といっても過言ではありません。このような事実から、一層のがん検診体制の充実が望まれます。

二つ目は、企業として取り組む事の重要性です。私たちは、各企業や保険者の皆様からがん検診の依頼を受けていますので、がん対策の大切さは十分に理解しています。これは働く人、一人ひとりにとっても重要な問題ですが、企業にとっても、“がん”による人財の損失リスクは無視できない深刻な問題です。働くことは、「がんと一緒に働くこと」とも言えます。

会社側が費用を負担し、就業時間内で、従業員にがん検診を受診する機会を提供することは極めて、重要です。初期段階でがんを発見することが可能となり、貴重な従業員の健康を損なわずに済むからです。また、全従業員にがんに対しての正しい知識を身に付けてもらうことも大切です。自身や家族、また、社内はもちろん、社外のがん患者への理解にもつながります。

三つ目は、がん検診を委託する際のポイントです。会社が重要視しなければならないことは、従業員のがん検診を行う委託先機関のがん検診の実態把握です。

最も大切なのは、①どれくらいの実績があるのか?②その中で「精密検査が必要」とされた方の数と割合はどれくらいか?そして、実際に精密検査を受けた結果はどうか?③がんと診断された方の数と割合はどうか?④診断されたがんの程度はどうだったのか?など、大切な従業員を守るためには、少なくとも、これらについて、すぐにデータを示すことができる機関を委託機関の候補とするべきです。そして、提供を受けたデータを精査し、より信頼できる実績を持った機関に委託してください。

当会は、「確かな安心をお届けする」を品質目標にしています。私たちは、お客様にさらなる安心をお届けし、さらに選ばれ続ける健診機関として、今後、より一層の精度管理に努め、ご期待にお応えしたいと思います。

「がん対策推進企業アクション」を主導されている中川Dr.が著書『がんは働きながら治す!』で述べられているように、現在の一億総活躍社会では、企業で働く人たちががんになっても、がんとともに働く、がんは働きながら治す病気という認識を持つことが重要です。参加をされた皆様からは、それぞれの職域での広報に努めていただきたいと思います。

REPORT 業務部 部長 古川孝

